新型コロナ ウイルス感染拡大 状況下での年会

巻／頭／言

およそ1年前、友人が手に入れたチケットをもらって国立競技場のオープニングイベントを見に行った。建設前にはトラブルもあったが、完成したばかりの国立競技場は全国から集めた木材と鉄骨のハイブリット構造で、周辺環境と調和した素晴らしいスタジアムだった。翌夏に開催されるオリンピック・パラリンピックには世界中からトップアスリートが集まって競技が行われることを想像し、心が躍った。そのわずか3か月後、緊急事態宣言が発令され、不要不急の外出ができなくなるとは思ってもみなかった。予定していた会議やシンポジウムが次々と中止や延期となり、オンラインでの講義が始まった。

生物物理学会の理事会は中村春木元会長の発案で数年前からオンラインで開催しているので、問題はなかったが、年会の開催については理事と年会実行委員の方とで議論が行われた。全面中止の可能性もあったが、若手奨励賞や学生発表賞を中止すべきではないという意見で一致し、何らかの方法で年会を開催することになった。開催方法の決定は2020年度年会委員長の大澤研二先生をはじめとする実行委員の方々にお任せすることになった。ぎりぎりまで、Gメッセ群馬での開催もご検討いただいたが、オンライン開催となった。若手招待講演はClosedでの開催となったが、シンポジウム、ポスター発表、学生発表賞の審査をはじめ、理事会主催の総会シンポジウム、日中ジョイントシンポジウム、男女・若手シンポジウム、キャリア支援説明会なども例年通り開催することができた。大澤年会委員長と実行委員の方々のご尽力には改めて感謝したい。

2021年度の年会は東北大学の高橋聡先生を年会委員長とし、11月25日（木）～27日（土）仙台国際センターでの開催が予定されている。新規感染者数が増加し、重症病床の使用率も増加しているという現状が、今後どのようになるかは大変心配ではあるが、参加者の安全と健康を第一に、開催方法については、高橋大会委員長と実行委員とともに理事会で慎重に検討したい。会員の皆様にはご不便をおかけすることになるが、ご理解、ご協力をお願いしたい。

オンライン開催も悪いことばかりではない。通常では参加しない遠隔地で開催されるシンポジウムに気軽に参加することができ、先月開催されたオーストラリア生物物理学会に、日本生物物理学会会員は無料で参加することができた。1日も早く新型コロナウイルス感染症の世界的流行が終息し、心配なく国内外の研究者と交流ができる日が来ることを心から願っている。

原田慶恵, Yoshie HARADA

大阪大学蛋白質研究所教授

一般社団法人日本生物物理学会会長